

心赴くまま 自分を出せた

演劇や美術 少しずつ自信つける

不登校

居場所を

探して

学校に通えない。教室に
なじみずついで。そんな子
供たちが、芸術活動を通し
て自分の内面を表現したり
、コミュニケーションの
スキルを育みながらできる居
場所が神戸市にある。活動
によって自信をうけた子供
たちは、学校に復帰した
り、やりたいことにチャレ
ンジしたりと、次のステッ
プへと進んでいる。

(藤井沙織)

舞台でいきいき

「15分の頭からいきます」「は
い」。10月31日、神戸市内で演
劇アクトル「ティエーエーシャ
ス フリー」シアター(TF)
T」の稽古が行われた。所属す
るのは不登校や学校に行けな
ざる子供たちだ。19日3日の上
演に向け、喜びや不安、戸惑い
などさまざまな感情をリフに乗
せて演じた。

TFは15年前、演劇部の顧問
経緯のある元中学校教師が、教室
で拙くがちな生徒が舞台とい
きいきする姿に「演劇の力」を感
じて立ち上げた。参加対象は小学
5年生、高校3年生、これまで舞台
に立ったのは80人超。代表を務め
る井原聡子さん(50)は「本当は学

校で皆と活動したいけれど、友達
をつくりにくい。自分を出すの
が怖いという子供が多い」と話
す。

演劇を通じてやりたかった挑
戦する力、社会と関わる積極性を
育むのが活動のねらいで、演じる
キャラクターは台本がない状態で
子供たちに自由に決めてもらう。
ゲームの登場物に妖妖、股球
天才花火師。「なりたい自分」
を模した人形になりきって即興劇
を繰り返して、そこで生まれたセリ
フからスタッフが台本を作り出す。
この即興劇がコミュニケーション
の練習になる。どうすれば全部
が井原か、相手の話を引き出せる
か。スタッフは「スタッフも参加
するが、その下手さがいい」



12月の上演に向け、練習に励む演
劇サークル「TF」の参加者ら
神戸市内

失敗しても大丈夫」という勇気に
なる」と笑う。同敷生らとまぐ
話せず苦しいんだという参加5年目
の高校生男子生徒(15)は「少し
ずつと気軽に話せるようにな
り、友達もできました。先生の
朗読をほめられ、自信もつい
た。昨年から参加する高校2年
の男子生徒(17)は「TFでのお業
しみがあるから、前向きに毎日
過」ると話す。

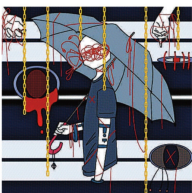
受け入れられる

神戸市西区のアトリエ「色彩楽
園」にも、不登校の学校を休みが
ちな子供が複数入連。絵画教室
のような課題はなく、子供たちは
色鉛筆や絵の具、色紙や空き箱な
どアトリエにある素材を自由に使
い、心の赴くままに作品をつく
る。

「作品はいわばその子自身。表
に出ない感情や欲求内包されて
いる」と話す。例えゲームはか
アトリエ主宰の藤井昌子さんは
「作品は描いた作品のモチーフや
色使いなどから、現状から脱却
したいという葛藤がふくまると
も、そうした心状態は保護者も
も共有する」

大切なのはどんな作品も受容
し、大切に扱うこと。「不登校の
子供の多くは強い不安を抱え、
受け入れられることで心のバ
ンが整」と藤井さん。次第に意
欲もわき、やりたいことが見え
てくる。学校生活を楽しめるよう
になつたかという、小学5年
の長女が通う神戸市の女性団は
「作品が認められることが自己肯
定につながる。うれしそうな
顔をみる」とが増えた」と娘の
変化を語る。

不登校の子供の支援に取り組ん
できた神戸市学院大の水野浩 教
授(臨床心理学)は「学校で自分
らしくいられない子供には、自分
を表現し、受け入れられる場
所が必要だと強調。演劇やア
ート以外にも、スポーツやダン
ス、楽器の演奏、プログラムを
作るとか自己表現エネルギーを
ためて進んでいく子どももい
ると話した。



不登校の子供の作品
(色彩楽園提供)

「不登校」に関する皆さんの情報や
ご意見、ご感想を募集します

住所、氏名、年齢、性別、電話番号を
明記していただき、郵送の場合
は〒556-8661(住所不要)産経新聞
大阪社会部「不登校取材班」
FAXは06-6633-9740、
メールはfutoyoukou@sankei.
co.jpまでお送りください。